

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O170502413		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム 生きがい Aユニット		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目3番20号		
自己評価作成日	令和4年2月3日	評価結果市町村受理日	令和4年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170502413-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム生きがいは『介護老人保健施設生きがい』の4階に併設しておりバス通りに面した土地で交通の便も良くホームは建物最上階にあるので窓からの見晴らしも良く明るい空間になっております。毎朝、両ユニット合同で行うラジオ体操・毎週木曜日の音楽療法・毎週金曜日の言語療法・毎月の誕生会・お楽しみ行事等、利用者様同士が顔を合わせ笑顔で挨拶や会話を交わすなどして交流の場を設けています。医療面では主治医の定期往診、ホーム看護師が健康管理を行い毎日安心して生活する事が出来ています。現在は新型コロナ感染対策の為、ご家族様と直接会う事が出来ないのもホームでの様子を少しでもお伝え出来る様、お便りと一緒に写真を同封したり、年賀状を送ったりと交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄駅からバスで10分ほどの、幹線道路沿いにある2ユニットのグループホームである。老人保健施設を中心とした4階建て建物の4階の1部が2ユニットのグループホームとなっている。周辺には小学校やコンビニエンスストア、商店があり、バス停やJR駅も近く、利便性が高い。室内は広く、中庭に面した窓も多くあり、日当たりがよい。中庭の大きな窓や開放的な事務所スペースを通してお互いのユニットの様子が感じられる。共用空間は、多くの絵画や手作りの装飾、遊び道具などを配置し、居心地のよい空間となっている。医療法人が母体のため、往診や健康管理の体制も整備され、利用者や家族の安心が得られている。感染症流行により現在は地域との交流ができていないが、流行前は町内会行事に参加したり、同一建物の老人保健施設に小学生が歌を披露しに来た際に子供と交流できていた。取戻後の交流の再開を予定している。ケアマネジメントの面では、利用者の思いや意向の把握に努め、基本情報やアセスメントシートを詳しく作成し、定期的に更新して共有している。また、職員同士のコミュニケーションが良好で、個々が役割を分担して運営に参加し、互いに意見を言いやすい関係を築いている。快適で安全な環境のもと、安心して生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに基本理念を掲示し職員1人1人が意識を高め実践に繋げる様に努めています。	3項目からなる基本理念の中に「地域の方々やご家族とのつながりを大切にします」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。基本理念をスタッフルームに掲示し、毎月の定例会議で基本理念を唱和し、共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナの影響により地域との交流は難しいですが運営推進会議のメンバーである民生委員、地域包括支援センターの方々とは会議録を郵送し意見交換等を行っています。	感染症流行前は、町内会行事に参加したり、同一建物の老人保健施設に近くの小学生が歌を披露しに来た際に見に行っていた。感染症流行により地域との交流ができていないが、収束後は再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は新型コロナの影響により地域貢献の実践は難しい状況にあります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、顔を合わせての運営推進会議は開催出来ておりませんが職員で話し合いを行い会議録を作成しご家族様へ、運営推進会議メンバーに郵送しご意見等の返信を頂きサービス向上に活かすことが出来る様に努めています。	現在は文書による会議を2か月ごとに開催している。事前にメンバーから文書で意見を聞き取り、議事録にしてメンバーや全家族に送付している。今後は、会議テーマに関する資料等も送付し、より多くの意見や質問を得たいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入居状況の報告、事故報告、生活保護者の状況報告等、提出を行っております。疑問点に関しては直接電話で問い合わせ回答を頂いております。	市役所等には主に電話で相談をしている。地域包括支援センターに最近では特に身体拘束に関する相談を行った。また、生活保護課の電話による調査に協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、毎月で身体拘束排除委員会を開催、会議内で身体拘束のないケアについての話し合いを行い「身体拘束排除マニュアル」での職員の意識付けも常に行っています。	1名の利用者に、状況に応じてベッド柵を使用しており、毎月の身体拘束排除委員会でのその妥当性等を話し合っている。「身体拘束ゼロへの手引き」やマニュアルを参考に年2回、勉強会を行っている。各ユニットからエレベータホールへのドアを施錠しているが、利用者の外出希望があれば同行し、閉塞感を与えないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナ感染対策の為、施設内研修は中止しており各自、資料配布による閲覧や定例業務会議内の話し合いを通して職員への周知に努めています。		

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については現在当ホームでは制度を利用している方はおりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書・重要事項説明書を基に説明を行い理解してもらえよう努めています。問題発生時にはご家族様と解決策を話し合い説明等を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との電話対応時に状況報告を行い意見・要望を頂きそれを参考にスタッフ会議での話し合いに反映させています。	感染症流行前は家族会を開催して意見を得ていた。流行収束後に再開する予定としている。家族に電話をした際に意見や要望を聞き、内容を連絡ノートで共有している。毎月ホーム便りを送付し、時には利用者の写真も同封している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う定例業務会議で意見があれば発信してもらい改善策や必要な取り組みについては全職員で話し合い日々の業務に反映させています。	毎月、定例会議を開催し職員同士が活発に意見交換している。管理者は職員と年1回の個別面談のほか、随時職員の話をしている。室内掲示物、物品管理、行事予定ノートの作成などの役割を職員が分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働時間や個々の水準に合わせ勤務体制を見極め、去れぞれの要望等を聞き入れながら、向上心が持てる様、努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加が積極的に出来る機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナ感染対策の為、現在は管理者会議・管理者集団指導等の場での交流は出来ていませんが必要な情報交換は電話、FAXを通して行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は不安な思いからメンタルを崩さない様、今までの生活歴を参考に職員からの細かい声掛けや利用者様同士の話しやすい雰囲気作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様からの要望・不安に思っている事を話し合い、意向に添える様コミュニケーションを大切に今後の関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談、アセスメントを通してご本人、ご家族様が必要としているニーズを見極めサービスの提供を行う事に努めています。 ※福祉用具必要性の提案など		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事は積極的に行って頂き出来ない部分を職員は介助し共に安心して日々生活出来るような関係性を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のホーム便り、オンラインでの面会、電話対応で日々の生活状況を伝え意見・要望を聞きながらホームでの生活を共に支えられる関係性を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、新型コロナ感染対策の為、直接の面会は出来ていないが、オンライン面会・電話・葉書き(年賀状)・写真を通してホームでの生活の様子を伝えています。	現在は友人や知人の来訪が実現できていないが、2名ほどの利用者は自分の携帯電話で友人に電話している。知人から年賀状が来る利用者もいる。馴染みの場所への外出ができていないが、通院帰りに遠回りして風景を楽しんだり、短時間、親族の法事に出かけた利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性を考慮しトラブルなく過ごせる様、必要時には職員が介入して利用者様同士、良好な関係性を築ける様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談があれば応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や表情等から意向を汲み取り、申し送りや会議時に職員で情報の共有を行い、本人らしく生活出来る様に支援しています。	8割ほどの利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい利用者も表情やしぐさから把握している。基本情報に生活歴などを、アセスメントシートに興味や嗜好などを詳しく記載し、定期的に更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様1人1人の1日の過ごし方を把握し今までの生活環境をなるべく崩すことなく生活スタイルが維持出来る様心掛けてます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康状態、活動の様子を介護記録・温度板に記入し少しの変化にもすぐに気付ける様に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングを実施し毎月の定例業務会議内で利用者様の状況や意向を話し合い必要であれば支援方法についての見直し又は、ご家族様の要望も含め現状に適した介護計画を立てています。	介護計画を3～6か月ごとに更新している。見直し時に作成するケアプラン評価表は、評価欄が詳しく記載されている。一方、日々の介護記録はケアプラン目標に沿った記録が十分に行えていない。	日々の介護記録について計画見直しに活かせるよう、目標番号を示しながらサービス実施状況やサービス提供時の利用者の様子について記載することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記入し、申し送り、連絡ノートでも職員同士が情報共有しながらケアに役立て介護計画の見直しにも反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、新型コロナ感染対策の為、外出・外泊は原則禁止としているが必要性の高い病院受診に関しては病院と連携を取り合い慎重に対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、新型コロナ感染対策の為、地域との交流や行事参加は難しい状況にある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による毎月の往診と整形外科以外での他科医療機関受診が必要な際はご家族様と連携を取りながら敏速に病院受診を行っています。	母体医療機関による月1回の往診があり、その他、利用者は2か月に1度、母体医療機関に通院している。内科、整形外科以外の通院は家族または事業所で支援している。受診内容を「受診往診記録」に記載し共有している。	

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調不良時にはホーム看護師に経過・状況を報告し指示を仰ぎ必要に応じて適切な医療機関への受診が行えるよう対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護・看護添書等で必要な情報提供を行い、入院中は家族や医療機関の相談員、看護師と情報を共有し退院後の生活に向けての相談、準備を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、【重度化した場合の対応に係る指針】をご家族様と取り交わしている。入居後、常時医療行為が必要と判断された際にはご家族様の意向も確認し今後の方針を決めています。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、書類を取り交わしている。重度化した場合は医師、家族と相談の上、母体医療機関等に移る場合が多く、事業所での看取りは今のところ想定していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し職員全員が利用者様の急変等に迅速に対応出来る様学習している。医師、看護師の協力体制も受けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防点検と年2回、事業所合同の避難訓練を実施している。訓練時には参加者それぞれが避難誘導時の役目を持ち混乱なくスムーズに訓練が行える様にしています。	年2回、同一建物の老人保健施設と合同で昼夜を想定した避難訓練を実施しているが、最近では地域との協力体制が築けていない。職員の救急救命訓練は、前回実施時から3年以上経過している。地震時の対応の確認も十分といえない。	避難訓練に地域の方の参加、協力が得られるよう働きかけを期待したい。3年に1回程度の救急救命訓練の実施と、年1回程度、地震時の対応について話し合う機会を持つことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様1人1人の人格を尊重する対応、丁寧な言葉遣いを心掛けています。	接遇やプライバシー研修を実施し、気になる声かけや対応があればその都度指導している。利用者には「さん」づけで呼びかけ、申し送りは事務所で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中でご本人が何を希望し望んでいるのかを察知し選択肢を与え自己決定が出来る様に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペース、意思を優先し日々穏やかに過ごしていただける様、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装、化粧、身だしなみはご本人が選択し自分らしさを尊重出来る様に支援しています。		

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合った食分量、好みの形状で提供しご本人が楽しみを持って食事が摂れる様、支援をしています。準備・片付けに関しては現在新型コロナ感染対策の為、実施しておりません。	食材会社の献立に沿って、好みに合わせて味付けを変えることもある。お楽しみ食事会にお弁当を取ったり、行事や誕生日にちらし寿司にするなど工夫している。職員も一緒に同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食分量を個々に記録し摂取量が不足している利用者様には体調等を考慮した上で個人の好きな物を提供し補える様に支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力での口腔ケアが可能な利用者様は声掛け・見守りにて、自力困難な利用者様は職員が介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様全員の排泄状況を記録し排泄パターンを把握している。トイレでの排泄がきちんと行える様、トイレ誘導・適切な使用パッドの選択も行っています。誘導時にはプライバシーに配慮した声掛けを心掛けています。	自立している利用者も多いが、全員の排泄状況を介護記録に記入している。体調に応じてポータブルトイレを使用することもある。失敗が少なくなるように、利用者に応じて声かけする時間間隔にも配慮している。昼夜でパッドの大きさなども変更している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、毎日のラジオ体操や個々に応じた散歩(ホーム内)等で適度に体を動かす事で便秘予防対策をとり、排便リズムが整う様に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は午前・午後可能で入浴を拒否される利用者様には本人のタイミングを見て声掛けを行いそれぞれが気持ち良く入浴できる様に対応しています。	毎日、午前と午後の時間帯で一人週2回入浴できるように支援している。入浴を拒む場合は、時間帯や声かけする職員を替えて入浴につなげている。好みの湯加減で、職員と会話をしたり好きなシャンプーなどを使用して楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や前夜間帯での睡眠状態を考慮しながら日中の活動に繋げ、心身に負担のかからない様、休息時間を設けています。不眠訴えがある方は医師に相談し就寝薬処方にて服薬されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様1人1人の薬剤情報をスタッフルームにファイルしており常に確認が出来る様にしている。薬の変更内容に関しては申し送り・連絡ノートを通じて全職員が情報共有出来るように徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在、コロナ感染対策の為、病院受診以外の外出は控えている為、外でのレクリエーションは中止しているがホーム内での年行事・誕生会を月2回で開催し楽しみのある生活時間を支援しています。		

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Aユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ感染対策の為、病院受診以外は戸外に出る事は控えているが気分転換も兼ねて昨年の夏、施設の屋上に上がり外気浴で散歩、シャボン玉を楽しみました。	感染症流行により外出する機会はほとんどなかったが、屋上で外気浴をしたり受診時に桜や周囲の庭の花を見て楽しめるように工夫している。感染症の収束状況を見ながら、季節の外出や外食などを積極的に取り入れていきたいと考えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に合わせた金銭管理を行っております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持、廊下に公衆電話の設置で自由に家族や友人に電話を掛け、ホーム用電話でもご家族様の希望があればお話出来る様にしています。今年は年賀状も出しご家族様との関係も大切にしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは毎月装飾を変え季節感を味わえる様に工夫をし、廊下には行事の際に撮影した写真や早口言葉などを掲示して、ホーム内散歩時等、利用者様同士が和気あいあいと楽しめる空間作りにも配慮しています。	リビングの大きな窓や中庭から光が注ぎ、明るく開放感のある共用空間になっている。壁には行事の写真や職員手作りのクイズ表、利用者の塗り絵作品などが掲示されている。季節感のある雛飾りなども飾られている。パズルやトランプ、塗り絵など利用者が楽しめるものも準備されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下の各所にソファを設置し利用者様同士がいつでも自由に楽しく会話をして過ごせる様に努めています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などはご本人が使い慣れた物を持ち入れ、安心して居心地よく生活出来る様配慮しています。又、居室内で安全に生活して頂ける様に導線の確保、模様替えをご本人様と相談しながら行っています。	居室には、ベッドや使い慣れた寝具類、馴染みのタンスなどが持ちこまれている。職員と一緒に制作した作品を壁に飾ったり、人形やぬいぐるみ、好きな小物類をそばに置いて本人が落ち着いてゆっくり過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の戸口に自室と解る様表札を付け、トイレ・浴室・洗面所には解り易いよう場所の表示を行っています。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O170502413		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム 生きがい Bユニット		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目3番20号		
自己評価作成日	令和4年2月3日	評価結果市町村受理日	令和4年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム生きがいは『介護老人保健施設生きがい』の4階に併設しておりバス通りに面した立地で交通の便も良くホームは建物最上階にあるので窓からの見晴らしも良く明るい空間になっております。毎朝、両ユニット合同で行うラジオ体操・毎週木曜日の音楽療法・毎週金曜日の言語療法・毎月の誕生会・お楽しみ行事等、利用者様同士が顔を合わせ笑顔で挨拶や会話を交わすなどして交流の場を設けています。医療面では主治医の定期往診、ホーム看護師が健康管理を行い毎日安心して生活する事が出来ています。現在は新型コロナ感染対策の為、ご家族様と直接会う事が出来ないのもホームでの様子を少しでもお伝え出来る様、お便りと一緒に写真を同封したり、年賀状を送ったりと交流を図っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502413-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに基本理念を掲示し職員1人1人が意識を高め実践に繋げる様に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナの影響により地域との交流は難しいですが運営推進会議のメンバーである民生委員、地域包括支援センターの方々とは会議録を郵送し意見交換等を行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は新型コロナの影響により地域貢献の実践は難しい状況にあります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、顔を合わせた運営推進会議は開催出来ておりませんが職員で話し合いを行い会議録を作成しご家族様含め、運営推進会議メンバーに郵送しご意見等の返信を頂きサービス向上に活かすことが出来る様に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入居状況の報告、事故報告、生活保護者の状況報告等、提出を行っております。疑問点に関しては直接電話で問い合わせ回答を頂いております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、毎月で身体拘束排除委員会を開催、会議内で身体拘束のないケアについての話し合いを行い「身体拘束排除マニュアル」での職員の意識付けも常に行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナ感染対策の為、施設内研修は中止しており各自、資料配布による閲覧や定例業務会議内の話し合いを通して職員への周知に努めています。		

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については現在当ホームでは制度を利用している方はおりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書・重要事項説明書を基に説明を行い理解してもらえよう努めています。問題発生時にはご家族様と解決策を話し合い説明等を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との電話対応時に状況報告を行い意見・要望を頂きそれを参考にスタッフ会議での話し合いに反映させています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う定例業務会議で意見があれば発信してもらい改善策や必要な取り組みについては全職員で話し合い日々の業務に反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働時間や個々の水準に合わせ勤務体制を見極め、去れぞれの要望等を聞き入れながら、向上心が持てる様、努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加が積極的に出来る機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナ感染対策の為、現在は管理者会議・管理者集団指導等の場での交流は出来ていませんが必要な情報交換は電話、FAXを通して行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は不安な思いからメンタルを崩さない様、今までの生活歴を参考に職員からの細かい声掛けや利用者様同士の話しやすい雰囲気作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様からの要望・不安に思っている事を話し合い、意向に添える様コミュニケーションを大切に今後の関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談、アセスメントを通してご本人、ご家族様が必要としているニーズを見極めサービスの提供を行う事に努めています。 ※福祉用具必要性の提案など		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事は積極的に行って頂き出来ない部分を職員は介助し共に安心して日々生活出来るような関係性を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のホーム便り、オンラインでの面会、電話対応で日々の生活状況を伝え意見・要望を聞きながらホームでの生活を共に支えられる関係性を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、新型コロナ感染対策の為、直接の面会は出来ていないが、オンライン面会・電話・葉書き(年賀状)・写真を通してホームでの生活の様子を伝えています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性を考慮しトラブルなく過ごせる様、必要時には職員が介入して利用者様同士、良好な関係性を築ける様努めています。		

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談があれば応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や表情等から意向を汲み取り、申し送りや会議時に職員で情報の共有を行い、本人らしく生活出来る様に支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様1人1人の1日の過ごし方を把握し今までの生活環境をなるべく崩すことなく生活スタイルが維持出来る様心掛けてます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康状態、活動の様子を介護記録・温度板に記入し少しの変化にもすぐに気付ける様に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングを実施し毎月の定例業務会議内で利用者様の状況や意向を話し合い必要であれば支援方法についての見直し又は、ご家族様の要望も含め現状に適した介護計画を立てています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記入し、申し送り、連絡ノートでも職員同士が情報共有しながらケアに役立て介護計画の見直しにも反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、新型コロナウイルス対策の為、外出・外泊は原則禁止としているが必要性の高い病院受診に関しては病院と連携を取り合い慎重に対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、新型コロナウイルス対策の為、地域との交流や行事参加は難しい状況にある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による毎月の往診と整形外科以外での他科医療機関受診が必要な際はご家族様と連携を取りながら敏速に病院受診を行っています。		

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調不良時にはホーム看護師に経過・状況を報告し指示を仰ぎ必要に応じて適切な医療機関への受診が行えるよう対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護・看護添書等で必要な情報提供を行い、入院中は家族や医療機関の相談員、看護師と情報を共有し退院後の生活に向けての相談、準備を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、【重度化した場合の対応に係る指針】をご家族様と取り交わしている。入居後、常時医療行為が必要と判断された際にはご家族様の意向も確認し今後の方針を決めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し職員全員が利用者様の急変等に迅速に対応出来る様学習している。医師、看護師の協力体制も受けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防点検と年2回、事業所合同の避難訓練を実施している。訓練時には参加者それぞれが避難誘導時の役目を持ち混乱なくスムーズに訓練が行える様にしています。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様1人1人の人格を尊重する対応、丁寧な言葉遣いを心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中でご本人が何を希望し望んでいるのかを察知し選択肢を与え自己決定が出来る様に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペース、意思を優先し日々穏やかに過ごしていただける様、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装、化粧、身だしなみはご本人が選択し自分らしさを尊重出来る様に支援しています。		

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合った食事量、好みの形状で提供しご本人が楽しみを持って食事が摂れる様、支援をしています。準備・片付けに関しては現在新型コロナ感染対策の為、実施しておりません。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量を個々に記録し摂取量が不足している利用者様には体調等を考慮した上で個人の好きな物を提供し補える様に支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力での口腔ケアが可能な利用者様は声掛け・見守りにて、自力困難な利用者様は職員が介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様全員の排泄状況を記録し排泄パターンを把握している。トイレでの排泄がきちんと行える様、トイレ誘導・適切な使用パッドの選択も行っています。誘導時にはプライバシーに配慮した声掛けを心掛けています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、毎日のラジオ体操や個々に応じた散歩(ホーム内)等で適度に体を動かす事で便秘予防対策をとり、排便リズムが整う様に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は午前・午後可能で入浴を拒否される利用者様には本人のタイミングを見て声掛けを行いそれぞれが気持ち良く入浴できる様に对应しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や前夜間帯での睡眠状態を考慮しながら日中の活動に繋げ、心身に負担のかからない様、休息時間を設けています。不眠訴えがある方は医師に相談し就寝薬処方方で服薬されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様1人1人の薬剤情報をスタッフルームにファイルしており常に確認が出来る様にしている。薬の変更内容に関しては申し送り・連絡ノートを通じて全職員が情報共有出来るように徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在、コロナ感染対策の為、病院受診以外の外出は控えている為、外でのレクリエーションは中止しているがホーム内での年行事・誕生会を月2回で開催し楽しみのある生活時間を支援しています。		

グループホーム 生きがい

自己評価	外部評価	項目	自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ感染対策の為、病院受診以外は戸外に出る事は控えているが気分転換も兼ねて昨年の夏、施設の屋上に上がり外気浴で散歩、シャボン玉を楽しみました。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に合わせた金銭管理を行っております。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持、廊下に公衆電話の設置で自由に家族や友人に電話を掛け、ホーム用電話でもご家族様の希望があればお話出来る様にしています。今年は年賀状も出しご家族様との関係も大切にしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは毎月装飾を変え季節感を味わえる様に工夫をし、廊下には行事の際に撮影した写真や早口言葉などを掲示して、ホーム内散歩時等、利用者様同士が和気あいあいと楽しめる空間作りに配慮しています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下の各所にソファを設置し利用者様同士がいつでも自由に楽しく会話をして過ごせる様に努めています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などはご本人が使い慣れた物を持ち入れ、安心して居心地よく生活出来る様配慮しています。又、居室内で安全に生活して頂ける様に導線の確保、模様替えをご本人様と相談しながら行っています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の戸口に自室と解る様表札を付け、トイレ・浴室・洗面所には解り易いよう場所の表示を行っています。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム生きがい

作成日：令和 4年 3月 10日

市町村受理日：令和 4年 3月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	日々の介護記録について計画見直しに活かせるよう、目標番号を示しながらサービス実施状況やサービス提供時の利用者の様子について記載することを期待したい。	ケアプランの援助内容に沿って利用者様の1日1日の状況を詳しく介護記録に記載しモニタリングや新たな援助内容に向けての話し合いに役立つ介護記録にする。	・職員目線での記録ではなく利用者様の言動を詳しく介護記録に記載する。 ・勉強会や定例業務会議内で記録の書き方について再確認をしていく。	即対応
2	35	避難訓練に地域の方の参加、協力が得られるよう働きかけを期待したい。3年に1回程度の救急救命訓練の実施と、年1回程度、地震時の対応について話し合う機会を持つことを期待したい。	緊急避難時に1人でも多くの近隣住民の方々に協力して頂ける様、具体的な働きかけを行い災害対策についての話し合いを職員間で定期的実施する。	・町内会役員の方が出席して下さる運営推進会議でテーマとしてあげ施設での対策等を発信していく。 ・定例業務会議内で災害時のマニュアルを参考に防火マップ等の再確認を行う。	即対応
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。